

HIV 陽性者が安心して暮らせる地方を目指して

理事長 今村 葉子

異常に暑い夏が終わり、秋たけなわとなりました。

鹿児島県の医療分野での HIV/AIDS の取り組みは、鹿児島大学を中心として年々厚みをまし都会と変わらない医療を受けられるようになってきました。一方で陽性者の日常生活は地方ということで、匿名性を守ることが困難であり、病气への理解が進まない中、就職に向けても大きな壁があります。

「鹿児島での HIV/AIDS の NPO を作ろう!」と、思い立って3年が経ちました。まず仲間を募り、「NPO Rin かがしま」と名前を付けました。運営委員が10名になり役割を決め、法人化に向けて取り組んでまいりました。そして、この10月8日ようやく法人化にこぎつけました。陽性者が安心して暮らせる社会は誰もが安心して暮らせる社会につながります。まだまだ、未熟な船出ですが、よろしくおねがいたします。



「Rin かがしま」の設立を喜ぶ

(その1・会員 A)

やっと法人化実現の運びとなりました。

私自身陽性者です。

自分が経験して来た中、告知、療養、服薬、就職等抱えきれない不安や悩み事、そして怒りが沢山ありました。医療関係者の沢山の方々にお世話になりながら現在に至っております。しかしそんな中やはり心身ともに救われたのが、同じ陽性者との繋がりでした。同じ悩みを抱え、時には恋話も交え、酒を酌み交わし、安心感すら覚えました。

医療関係者や行政の方たちばかりでは決してできない、我々にしか出来ないことがあると信じ、悩みや不安を共有し安心して暮らせるお手伝いができればと思っています。

(その2・会員 B)

私が HIV に感染したのが 22 歳の時。今現在 29 歳。もう 7 年...? まだ 7 年...? 感染発覚当初は、色々なものを自らの判断で失いました。でも今考えて見ると、この 7 年間で色々な人と出会い沢山の人に支えられながら生きてきたんだと思います。

今現在、私は HIV に感染していることをオープンにし、障害者として正々堂々と働いています。もちろんそこに至るまでの経緯は容易なものではありませんでした。まず「事実」や「現実」を直視し、HIV 感染者である自分自身と向き合っていく覚悟が必要でしたし、まだまだ HIV に向けられる世間の目はそう甘くはありません。そこをどう切り崩していくか悩んで居たとき、そっと手を差し出してくれたのが、同じ病気の仲間や、サポートして下さる沢山の方々でした。

その時、私はつくづく感じたのです。

「1人で頑張って、踏ん張って生きてきたつもりだったけど、結局、1人では生きていけないんだな」と。

自分自身と向き合い、歩き始めたとき、助け(サポート)を求める場は絶対に必要です。もちろん、苦しい時、辛い時、悔しい時、逃げ出したい時に気兼ねなく相談出来る場(相手)も必要です。是非「Rin かがしま」には、HIV 感染者の方々が生き易くなる環境づくりを、様々な角度から行ってほしいと思います。当事者である私は、私にしか出来ない角度からお手伝いして行く決意を (次頁へ)

「Rin かがしま」の設立を喜ぶ

(前頁より) しています。

HIV 感染者の方々が、常々向き合っている「差別」や「偏見」から逃げも隠れもしないのは無理なのかもしれません。ですが、諦めてしまったら全てその時点で終わりなのです。諦めることなく、誰のために、何のために活動しているのか、それを忘れることなく、みんなで一緒に突き進んでいきましょう。この南九州で当事者、医療スタッフ、支援・サポートして下さる全ての方々、そして「Rin かがしま」が輝き続けるために!!!

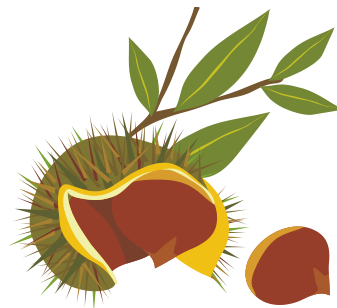
(その3・会員 C)

「Rin かがしま」の設立、本当にうれしいです。

東京在住の時、子供が難病で入院し、その検査の過程で HIV にも感染していることがわかりました。そのことを伝えられたときのショックと悲しみは、言い尽くせないばかりだけでなく、私の中にもあった HIV への無理解と偏見は、本人のためにも、家族のためにも隠しておかなければ!と、必死な思いでした。しかも、残念ながら、そのこの病院の一人の看護師さんから耳打ちされるように「お母さん、どうして感染したか知っていますか?」と責められているかのように言われた時の、親としての葛藤!ただ、救いは、そのこの病院の、ソーシャルワーカーや看護師さん、医師の中に、東京の HIV 陽性者支援の NPO と私たちをつなげてくれる人たちがいたことで、本人はもちろん親も共に闘病生活を支えていこうとする時の、励ましとなったものでした。

その後、様々な事情で子どもは鹿児島で闘病生活を送ることを選択することになるのですが、その時に東京の NPO の方々も、鹿児島の支援体制の遅れを心配してくれていました。たしかに、私自身、誰にどのように相談していけばよいのか、戸惑うことも多々ありました。自分の子どもの病気の現状の事実を、率直に語れないほど辛いことはないものです。

そんな時聞いた「鹿児島にも HIV 陽性者支援



の NPO を作ろう」という話は、私たちの願いと一致するものでした。

そして、それが実現への道を歩み始めた時私の顔にも笑顔が戻ったと思います。

これから陽性者はもちろん、お互い支えあって生きていけるエネルギーをもらえる NPO に育っていきけるよう私も微力ながらお手伝いしていきます。

(その4・会員・医師・古川)

鹿児島県の HIV 感染者も全国同様増加傾向にあります。

鹿児島県に報告されている新規 HIV 感染者は 2010 年、2011 年と連続 13 人を数えましたが、2012 年は 8 名、2013 年は 9 月現在で 6 名と減少しているようにも見えます。

しかし本年の特徴は AIDS 発症での報告割合が増えており、保健所・病院で発症前の HIV 検査受診者が減少していることを示唆しており危惧される所です。

現在の HIV 感染症は治療により (内服を 100% 達成していれば) AIDS 指標疾患での死亡は殆ど見られなくなっており、慢性疾患として加齢性の疾患 (脳卒中、心筋梗塞、腎疾患、肺癌等) が、早期に起こることが注目されるようになっていきます。

一方鹿児島等の地方では近くの病院に通院したくてもプライバシー等への心配が解消できない等の理由もありほぼ全ての新規感染者が鹿児島市内の大学病院と鹿児島医療センターに集中していることも悩ましい所です。

HIV 感染者は 9 割程度が男性ですが、同性間だけでなく異性間感染も含めて HIV 感染の拡大の予防、感染者のさまざまな相談ができる NPO 法人に発展していかれることを希望します。

(その5・保健所・宮島)

念願でありましたNPO法人「Rinかごしま」の設立、誠におめでとうございます。

鹿児島市保健所には年間900人近くの方々がHIV抗体検査に訪れており、感染が確認された方々には専門の医療機関の紹介や相談を受けるなどのサポートを行っております。

しかしながら、私たち行政や医療機関だけでキャリアの皆様のをサポートすることには限界があり、キャリアの皆様や周囲の方々が安心して話ができる場があればと常々感じていました。

このような中、ここ鹿児島においてHIV・エイズの方を支援するNPO法人が設立され、今まさに、その第一歩がここに踏み出されましたことは、大きな飛躍であり、これまで設立に携わってこられた皆様のご尽力に敬意を表します。

行政相手では敷居が高いけれど、当事者同士だからこそ共有できる安堵感、当事者の立場だからこそ伝えられる言葉や差し伸べられる手があると思います。

そして、皆さまの思いやメッセージを私ども保健・福祉・教育行政の現場や医療関係者に届けていただき、また、私たちも皆さまの活動にお応えできるよう、手に手を取り合い、ともに語り、考え、歩んでいければと願っております。

今後の「Rinかごしま」の活動に大いに期待いたしますとともに、これからも素晴らしい出会いがあることを祈念いたします。

(その6・会員・臨床心理士)

待望の法人設立の実現、おめでとうございます！

「変えられないことを冷静に受け入れるゆとり」と「変えられることを変えていく勇氣」と、その違いを見分ける確かな目を持った法人でありますよう期待しています



<活動報告> これまでも NPO の認可手続きの作業をすすめながら、毎月の定例委員会、啓発活動、電話相談等の諸活動を行ってきました。

■鹿児島県エイズ対策連絡協議会参加報告■

7月4日、医療機関、医療関係団体、行政機関メンバー皆様による協議会へ、理事長とともに参加してきました。

協議事項は以下の3項目でした。

- 1、鹿児島県と全国のHIV感染者・エイズ患者の現況と状況、
- 2、県の対策取組、学校における性、エイズ教育の指導と取組、
- 3、そしてエイズ治療協力病院の診療体制

その後、当事者である私自身が経験して来た事、望んでいる事などを発表させていただきました。

今回初めての協議会参加でしたが、協議会メンバーの皆様が各々の分野で色々と取り組んでいることを知り嬉しく思いました。ただ、この活動が社会のどこまで浸透しているのかを考えさせられる場面でもありました。

そして全体を通し、当事者の声も取り入れた今後の取組対策を考えることが必要なのではと感じました。たとえばMSMによる感染者、患者が多いのであれば、そこに打つ手立てはどうするのか、また陽性者自身や陽性者家族が抱える悩み、不安に対しての精神的相談窓口の取り組みはどうするのか、このような対策活動も取り入れて行けばより普及啓発、予防啓発にも繋がっていくものではないかと感じました。(次頁へ)

(前頁より) また都心部と地方都市の医療体制の大きな違いも感じました。鹿児島は離島を含む地方都市故の難しさもあります。これからは医療機関・医療機関団体・行政・そして当事者たちとの連携を図った活動が、今後さらに必要になってくるのではと、今回の協議会に参加して思った次第です。

そんな取組活動の中、我々「Rinかごしま」の存在が、今後の取組対策活動の大きな手助けとなりえるのではないのでしょうか。

このような場を設けて頂いたこと、ありがたく思っております。



■ 感染症講演会参加報告 ■

平成 25 年 8 月 9 日、鹿児島市の中央公民館で感染症講演会が行われた。これは市の保健所が主催するもので、結核やインフルエンザ、ノロウイルスに関する講話と共に、当 NPO から、HIV 感染者への対応などについてのお話をさせていただき、参加者はおよそ 340 名でした。

理事長の今村葉子から、HIV・エイズについて 15 分程度説明があり、その後、陽性者 2 名が、舞台袖から HIV 感染者への理解を求める講演を行うという形式をとりました。

この陽性者からの直接的な言葉は、参加者の心に届く物であった様に思われます。

「講演後、回収されたアンケートから、例年にない反響を感じる事が出来た」と、主催者からはコメントを頂きました。アンケートの中には、「当事者の声が聞いて良かった」「病気よりも、偏見をなくすことがこの病気の根幹だとわかった」という内容が多く見られ、HIV 感染者について、興味と理解を得ることが出来た様に思います。

■ 電話・メール相談を受けて ■

電話相談：1 件 メール相談：2 件 (のべ 6 通) (平成 25 年 11 月 5 日現在)

7 月より行っている電話・メール相談。たくさんある方が良いわけではないので、一概には言えませんが、現段階では、活用されているとは言い難いようです。

当事者が困ったときに、すぐ相談を受けることが出来る体制を整えるため、これまで、毎月第 2、第 4 火曜日に行っていた電話相談を、11 月から、毎週火曜日に行うことに変更しました。また、事前にメールで予約をすれば、他の時間でも電話相談を受けることができるようにもしています。



今後の活動予定



① NPO 法人 Rin かごしま設立記念学習交流会

11 月 17 日(日) 於 鹿児島女子短期大学

② 第 27 回日本エイズ学会学術集会

11 月 20 日～22 日 於 熊本

※ 20 日夜シンポジウムで「鹿児島での NPO づくり」を、今村理事長報告。

③ 県主催 HIV 研修会 (保健所・医療機関職員向け)

11 月 29 日(金) 於 鹿児島県庁

※ 当 NPO メンバー 5 名で集団報告

④ 高校生対象の HIV に関する教育講演会

12 月 17 日 (火) 於 種子島・西之表市

※ 理事長・副理事長 2 名講話予定

⑤ 鹿児島県主催の鹿児島レッドリボン月間。

※ 11 月 16 日～12 月 15 日の期間は、

12 月 1 日の世界エイズデーにも呼応して

鹿児島でもさまざまな HIV 啓発活動が取り

組まれる予定なので、我が NPO もできるだ

け協力していきます。

(会員拡大に御協力を!) 現在約 20 名。少数
精鋭・多士済々と言えなくもないですが、やは
り数は力なり。是非、周りにお声掛けを!